

浦安ブライトンホテルの神前結婚式

静寂に包まれて厳かに誓う、和の結婚式。神道に基づく日本古来の伝統的なスタイルには、儀式のひとつひとつに、意味が込められています。ブライトンなら縁結びの神社として有名な「東京大神宮」の神様が祀られた神殿で、伝統ある結婚式が叶います。



神前式次第 （神前結婚式の流れ）

- 一、**手水の儀**
神殿に入る前に、心身を清めるために行います。
- 一、**入場**
御巫の先導により、新郎新婦より入場。神様が祀られているところに近い方から血縁関係の強い順に座ります。
- 一、**斎主一拝**
斎主（司祭をする神職）からの開式挨拶。斎主と共に、列席者全員と神前に一礼します。
- 一、**修祓の儀**
心身を清めるためにお祓いを行います。
- 一、**祝詞奏上**
斎主がふたりの結婚を神様に報告します。
- 一、**三献の儀**
「三三九度」の儀式。
一盃目は新郎↓新婦、二盃目は新婦↓新郎、三盃目は新郎↓新婦の順番で、最初の二口は盃を口につける程度で、三口目でいただきます。
- 一、**誓詞奏上**
新郎新婦が誓いの言葉を読み上げる儀式。神前で一礼後、新郎が誓いの言葉を読み上げ、最後に氏名を読みます。新婦は新郎に続いて自分の名前だけを読み加えます。
- 一、**玉串奉奠**
感謝と祈りを込めて、玉串を神前に奉納します。新郎新婦の後、続けて両家列席者代表にも行っていました。
- 一、**指輪交換**
神職が指輪を三方にのせて渡します。新郎から新婦へ、次に新婦から新郎へ。左手の薬指に指輪をはめます。
- 一、**巫女の舞**
両家の繁栄を祈った「豊栄の舞」を舞います。
- 一、**親族盃の儀**
列席者全員で盃のお神酒を飲み、親族同士のつながりを固める儀式。
- 一、**斎主一拝**
挙式を司った神職からの言祝ぎ。

神前式の豆知識

■神前式の由来

日本古来の伝統的な儀式として長い歴史がありそうな「神前式」ですが、実は神社で行なわれるようになったのはほんの100年前の明治時代。「東京大神宮」がその創始と言われています。



■二礼二拍手一礼

神道における参拝の基本的な作法です。まず深々と2回お辞儀し、拍手を2回打った後、再び深々としたお辞儀を1回。お辞儀は腰の角度が90度になるまで頭を下げる（拝礼）のが正式。また、拍手は胸の高さで打ちます。



■三々九度

小・中・大の三つ重ねの盃で交互にお神酒を飲み交わし、夫婦の永遠の契りを結びます。お神酒は最初の二口は口をつける程度にし、三口目でいただくようにします。全部飲む必要はありません。あくまでもお互いの口をつけることが大切です。



■玉串

玉串とは、神の小枝に紙垂を付けたもので、神と人をつなぐ役目をするもの。これを神前に供えることで、神とのつながりを固める意味があります。

